wizefloor JP
move | play | educate

【導入事例】

子ども一人ひとりに合わせられるから遊びの可能性が広がる「Wizefloor」

遊びリパーク　リノア　たまプラ様



イントロダクション



「遊びリパーク　リノア　たまプラ」は、重症心身障害のこどもたちに放課後等デイサービス・児童発達支援サービスを提供する施設です。

「好き・嫌い」だけでなく
身体機能や発達段階に合わせて調整できる

--Wizefloorの良いところは、どんな点だと感じましたか？

安田 一貴さん（理学療法士）：

Wizefloorの一番の魅力は、**こどもの「好き・嫌い」だけでなく、身体機能や発達段階に合わせて細かく設定を調整できること**だと感じました。「こどもが"モノ"に合わせる」のではなく、「その子に合わせてゲームをカスタマイズできる」。

運動機能や発達課題に応じて細かく調整できるので、一人ひとりに合った遊びを提供できます。こうした柔軟なカスタマイズ性は、他の遊び道具にはあまりない大きな特徴だと思います。

安田 伸枝さん（保育士）：

一般的な遊びは、こどもが遊具やルールに合わせる必要があります。でもWizefloorは、**こども一人ひとりに合わせて遊び方を変えられる**ので、遊びの幅が大きく広がると感じました。



同じ空間でお互いが心から楽しめる時間を共有できる

--きょうだいが施設に来られた時は、どのように遊んでいますか？

安田 伸枝さん：
　他の遊具では、きょうだいそれぞれの発達段階に合わせて「この子はこのレベル」「お姉ちゃんは少し難しく」といった遊び方までは十分にできていないと感じています。Wizefloorなら、**同じコンテンツでも一人ひとりに合わせて難易度を調整できる**ので、それぞれが自分に合った楽しみ方をしながら一緒に遊ぶことができます。
　これはきょうだいだけでなく、障害のあるこどもと健常児、年齢の違うこども同士でも、年齢や障害の有無に関係なく、一緒に遊べる環境づくりにつながると思います。

安田 一貴さん：
　障害のあるきょうだいがいるこどもは、日頃から「待ってあげる」「譲ってあげる」といった場面がどうしても多くなります。
　だからこそ、同じ空間で、お互いが心から楽しめる時間を共有できるというのは、とても価値があることだと思います。WizeFloorは、そんな「みんなが一緒に楽しめる環境」をつくるツールとして、とても魅力を感じました。

